

I 第43回世界遺産委員会決議の対応について

II 長期モニタリングについて

（事務局説明）

個別のモニタリング項目ごとに適合か不適合か、さらに現在の動向が良い方向に向かっているかどうかを判断し数値化して評価した結果、現段階での評価値（最良は5）は、2.5（注視すべき状態）となる。

III ルシャ川の取組について

3-1 【ルシャ川ダム改良】測量による土砂移動等の把握を行いながら、計画に従って改良工事を進めていく。

（事務局説明）

第3ダムの幅40mの切下げを完了したこと、第1ダム前堤の一部切下げと石組斜路を設置したことを報告。

AP会議論点

- 第2ダムと第3ダムの間の右岸の泥状の溜りにサケが留まってしまうのは望ましくない。
- 第3ダムの上流がまだ直線的だが、これがどのように変化していくのを注視すべきである。

3-2 【ルシャ川河床路】河床路の変形や河床路下流の洗堀等のモニタリング調査を継続する。

（事務局説明）

冬期間（11月～1月）の波浪が河床路を越えることがあり、土砂を移動させている。その影響で河口の流路は大きく蛇行した。流木も河床路上流に漂着した。河床路の路体に変化は無かった。減勢工の設置は一旦見合わせたい。

AP会議論点

- 河床路の下流側は河床対策を行った方が引き波に対しての浸食防止として重要。
- モニタリングを継続し、河床低下が頻繁に起こる場合、河床対策を検討すべきである。

IV 第二次検討ダムについて

4-1 【オッカバケ川第2号治山ダム】第2号ダムのモニタリング調査を継続する。

(事務局説明)

現在、3.5mの切下げが終了し、10月に最終の切下げを実施する予定。第1号ダム改良の検討に資するためiRICによる河床変動シミュレーション実施している。iRICでは①現状維持、②10m幅で半分切下げ、③10m幅で全部切下げのパターンを想定している。

AP会議論点

- 10m幅で半分切下げの場合は、切下げた部分をさらに5m幅で切下げるなどの臨機応変な対応も考えられる。
- 丸まった石は流れやすいが碎石のように噛み合う場合は安定性が高まる。
- 第1号ダム下流の産卵環境調査も事前に実施しておくことが適切である。
- オッカバケ川ダム改良をピート・ランド氏が高く評価し、海外のホームページに載せている。今後も海外からの注目を浴びると考えられる。

4-2 【イワウベツ川No3、No7ダム】イワウベツ川No3、No7ダム改良検討を進める。

(事務局説明)

No3ダムの老朽化が懸念されている。本年度の調査内容と改良検討スケジュールを報告。

AP会議論点

- 次回のAP会議で具体的な改良内容を提示していただきたい。